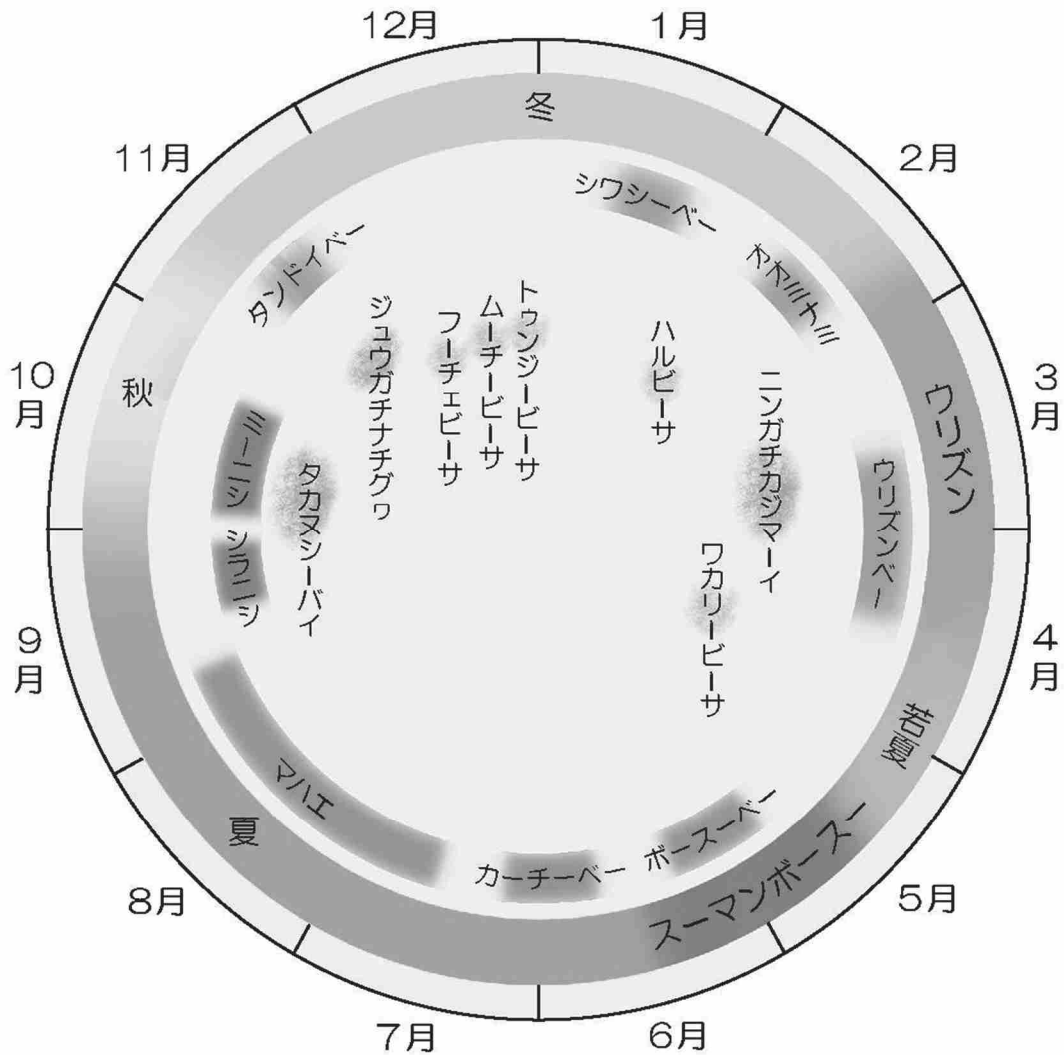


25 沖縄の季節

自然



● 亜熱帯海洋性気候 沖縄の季節・気候の特徴

日本の九州以北と比べて、沖縄には次のような特徴がある。これらは、沖縄が亜熱帯地域のアジアモンスーン帯に位置し、黒潮の影響を強く受けることによる。

- ①梅雨は一か月早く始まる。
- ②梅雨期から夏にかけては、高温多湿で曇りや雨の日が多い。
- ③夏の期間が長く6月から10月頃まで続く。
- ④台風の通り道にあり、夏季に猛烈な台風の到来が多い。夏季の台風は、大陸に発達する高気圧に押され、ほぼ琉球列島沿いに北上する。
- ⑤秋と春は短く明瞭でない。
- ⑥冬には雪や霜が見られないが、季節風が強く熱帯のような強い雨が降る。
- ⑦年間あるいは一日の気温較差が小さい。黒潮による冷却効果（夏）と温暖効果（冬）による。
- ⑧年間平均降水量が2,100～2,300mmと多雨。暖かく湿った海洋性の「小笠原気団」と、冷たく湿った大陸性の「オホーツク気団」が接することによって発達する梅雨前線と台風の影響による。

参考資料

●沖縄の季語

●季節

ウリズン（陽春）	雨が降り大地がうるおい、作物の芽が出始める季節。旧暦の2～3月頃といわれる。
ワカナツ（若夏）	気温が高くなり、ウリズンに芽吹いた草木が緑を濃くしていく季節。旧暦の3・4月頃といわれる。
スーマンボースー（小満芒種）	梅雨のこと。沖縄は日本で一番早く梅雨に入る。

●風

オオミナミ（大南風）	2月下旬頃に吹く南風。
ウリズンバー（陽春風）	ウリズンの頃に吹く南風。
ボースーバー（芒種風）	梅雨の時期に吹く風。
カーチーバー（夏至南風）	梅雨明けの夏至の頃に吹きはじめる南西の季節風。カーチーバーとともに沖縄は本格的な夏になる。
マハエ（真南風）	夏の時期に安定して吹く南東の季節風。
ミーニシ（新北風）	10月上旬頃吹き始める北東の季節風。ミーニシが吹き始めると沖縄は秋に入る。
タンダイバー（種子取り南風）	立春（新暦11月7日）の頃に吹く南風。
シワシーバー（師走南風）	旧暦の12月頃に吹く南風。

●天候

ニンガチカジマーイ（二月風廻り）	3月20日頃（旧暦2月頃）に、沖縄近海に低気圧が急に発達し、海が荒れる悪天候のこと。
ジュウガチナチグウ（十月夏小）	立冬（新暦11月7日）の頃、北東からの風が弱まり、タンダイバーが吹き暑くなる時がある。このような天候をいう。
タカヌシーバイ（鷹の小便）	10月上旬頃ミーニシの影響で天候が不安定になり小雨が降る時がある。このような天候のことをいう。

●寒さ

フーチェビーサ <small>ふいご</small> （鞆祭り寒さ）	フーチェとは鍛冶屋が使うふいごのこと。旧暦11月8日（新暦12月上旬）はフーチェ祝をした。この頃にくる寒さ。
トゥンジービーサ（冬至寒さ）	冬至（新暦12月22日）の頃にくる寒さ。
ムーチャービーサ（餅寒さ）	ムーチャーの日（旧暦12月8日）の頃にくる寒さ。
ハルビーサ（田植え寒さ）	2月半ばにくる寒さ。この頃田植えが行われた。
ワカリービーサ（別れ寒さ）	4月下旬から5月上旬にくる最後の寒さ。

●新暦と旧暦、一か月・一年の長さ

新暦：一か月が30.43日 一年が365.2422日 旧暦：一か月が29.53日 一年が354.37日

新暦は、太陽年365日に合わせるため、4年に一度1日（2月29日）を加える。

旧暦は、太陽年365日に合わせるため、19年に7回同じ月（うるう月）を加え1年を13か月にする。

●月の満ち欠けと旧暦

月の満ち欠けと旧暦の日には関連している。月の満ち欠けを見れば、だいたいの旧暦の日がちがわかる。また旧暦の日から、月の満ち欠けの状態を知ることができる。一日が新月、八日が上弦、十五日が満月、二十三日が下弦になる。

季節風や黒潮が沖縄の季節や気候に影響している

●アジアモンスーン帯

沖縄は、冬は大陸高気圧から吹き出す北よりの季節風、夏は太平洋高気圧から吹き出す南よりの風が多く吹く。夏の風は熱さや湿気を運び、冬の風は寒さや乾燥を運び。沖縄の気候や季節は、これらの季節風の影響を強く受ける。冬と夏で風の向きが反対になる風のことを季節風（モンスーン）という。このような季節風の影響を強く受ける地域をアジアモンスーン帯という。

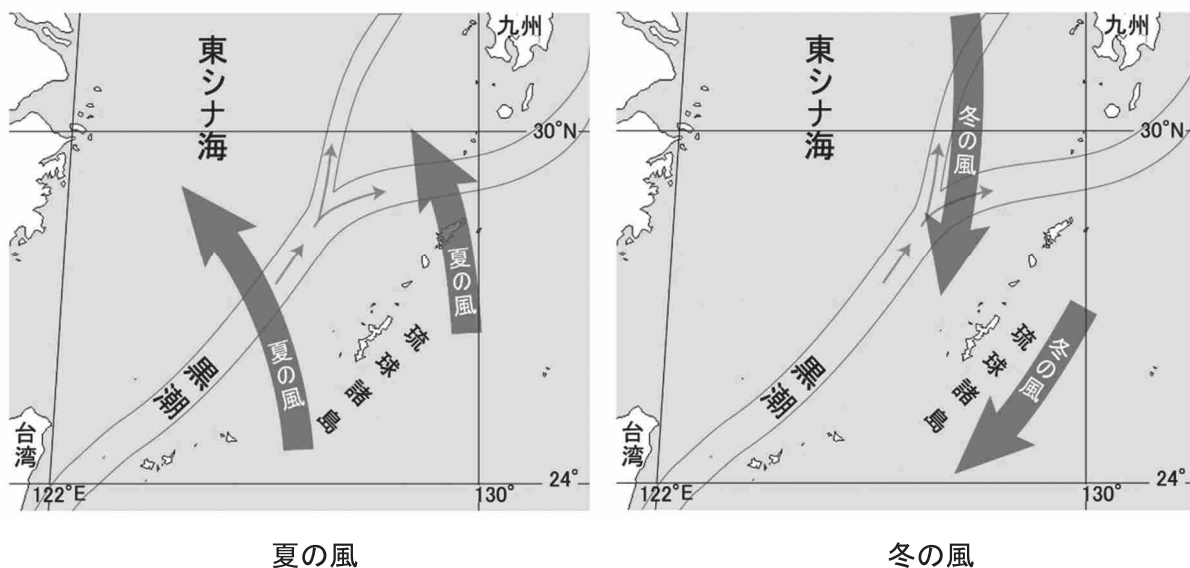
●黒潮

黒潮は、フィリピンの南から北上し、沖縄の西、九州・四国・本州の南岸を流れる大海流（ほぼ一定の向きで流れる海水）である。周囲の水よりも水温が高く海水が黒く見えることから、黒潮という名前がつけられた。その流れの幅は100～200km、深さ200～1,000m、流速は毎時2～9km、毎秒約5,000万トンで流れている。真夏の水温は29℃もあり、冬でも沖縄近くで20～22℃ある。

琉球列島は、この黒潮の影響を強く受ける海洋性気候。冬の北からの季節風はこの黒潮の上を通るため、暖められてから沖縄に近づく。そのため寒さが厳しくならない。

●亜熱帯

亜熱帯は中緯度高気帯に位置し、サハラ砂漠やボリビア砂漠のように雨の少ない小雨帯に属する。しかし、沖縄は大陸の縁に位置する大陸島で、季節風や黒潮、周囲の気団の影響を受けることから、亜熱帯海洋性気候という気候帯となっている。



出典：沖縄の気象と天気，1990，を参考に描く

●沖縄の季節を考える

- (1) 天候や季節の言葉が入ったことわざや言い伝えを集める。
- (2) 過去の「セミの初鳴き」や「デイゴの開花」などの自然現象の情報を集め、その日にちを新暦と旧暦で比較する。
- (3) 沖縄と同じ緯度にある国々の気候や暮らしを調べる。

26 沖縄の自然と暮らし

自然

● 沖縄の自然と暮らしの関わり

私たちは、大昔から現在に至るまで、自然の恵みとともに生きてきた。近代化が進んだ今もなお、衣食住、祭祀に至るまで、私たちの暮らしのあらゆる場面に自然との関わりが見えてくる。

沖縄の自然と暮らしの関わりにはどのようなものがあるだろうか？

ここでは、主に在来種や古くから沖縄に帰化した種を中心に掲載し、一般的な農産物、魚介類は除いている。

● 食用

実：ヤマグワ、シークウサー、ノブドウ、ノビル、ツルナ、ホソバワダン（ニガナ）、ボタンボウフウ

葉（お茶など含む）：オキナワニッケイ（カラギ）、ゲットウ、オキナワニシヨモギ

全体：ネンジュモ（モーアーサ）

食物包み：ゲットウ、アオノクマタケラン、サンキライ（サルトリイバラ）、バナナ

● 薬草

アキノワスレグサ（クワンソウ）、アマチャツル、イソマツ、ヤエヤマアオキ（ノニ）

● 衣類

パナマ帽：アダン 貝ボタン：タカセガイ 笠：ピロウ（クバ）

● 染料

ヤエヤマアオキ（ノニ）、オキナワシャリンバイ、フクギ、クチナシ、リュウキュウアイ、スタジイ

● 繊維

糸：イトバショウ、カイコガ+ヤマグワ 紙材料：カラムシ、カジノキ、ゲットウ

● 建材

材木：リュウキュウマツ、スタジイ、イヌマキ、イスノキ

屋根葺き：ススキ、チガヤ、リュウキュウチク 漆喰（むち）：サンゴ、石灰岩、ススキ

石垣：サンゴ（石灰岩）

● 伝統工芸

紅型筆：リュウキュウチク 獅子舞頭部：デイゴ 琉球漆器：デイゴ、センダン

和蝋燭：ハゼノキ 三線：リュウキュウコクタン

螺鈿細工：ヤコウガイ、シロチョウガイ、クロチョウガイ、カワシンジュガイ、アワビ、アコヤガイ

陶器：各地の土壌（島尻マーシ、国頭マーシ、ジャーガルなど）

● 祭祀

草冠：カニクサ（シダ）、ゴンズイ 棺桶：ヘツカニガキ 拝所への植栽：ピロウ、クロツグ

魔除け：スイジガイ、シャコガイ、クモガイ、ススキ（サン）

● 生活用品

石鹸：ムクロジ、ヤブニッケイ 防虫剤：モロコシソウ 漂白剤：シークウサー

わらびカゴ：コシダ シャンプー：泥岩（クチャ） トイレットペーパー：オオハマボウ

ほうき：ススキ 扇：ピロウ（クバ） 薪：リュウキュウマツ お金：タカラガイ

● 玩具

虫かご：ソテツ 紙鉄砲：クロツグ 風車：クチナシ 羽根付きの羽根玉：ムクロジ

首飾り：ジュズダマ 化粧品：ホウセンカ

● 民謡・童歌

ていんさぐぬ花：（ホウセンカ）、子ぬ方星：（北極星） じんじん：（ホタル）

アンパルヌミダガーマユンタ（網張ぬ目高蟹ユンタ）：石垣島名産アンパルに生息する 15 種類のカニが登場

鷺ぬ鳥節：カンムリワシ くがつんまいふう：サシバ